

【目的】カテーテル室看護師は覚醒下に検査・治療を受ける患者に対し、担当看護師が術前訪問や術中状態に合わせ、個別性看護を実施している。今回、カテーテル室看護の質の向上を目的とし、新たに現状把握のための満足度調査を実施した。【方法】調査期間 2018 年 9 月から 11 月。心臓カテーテル検査・治療患者対象にアンケート実施。緊急症例や不整脈治療、認知機能低下等で記入困難な患者は対象外とした。【結果】総配布数 129 件、回収率 89.1%。術前訪問は 94%が必要で、説明方法は 90%以上がわかりやすいと回答。術中気持ちの表出ができなかったは 2%、術中対応の安心感があつたは 98%だった。カテ室環境は移動時の安全性のみ 1.7%悪いとの結果だった。自由記載では「この方がついていて下さるのだ！と思えたことが何よりの安心材料」等のコメントがあつた。【考察】担当看護師が術前から傾聴と検査に伴う状況説明を行い、代弁者・擁護の役割を伝えている。術前・入室後も患者の希望に沿うよう共に体位などの調整を図り、安心感や信頼感の構築を心掛けている。その結果が個別性看護の提供や患者の気持ちの表出に繋がっていた。津田ら¹⁾の「検査前訪問と検査中のナースが同一であることが、患者を安心させ、まかせるというコーピングにもつながる」とあるように、当院でも担当看護師の術前からの関わりが、良好な満足度の結果へ繋がったと考える。【結語】当院における患者満足度は、術前から担当看護師が関わり個別性を考慮した看護が提供できているため高かった。